

こどもの心の中を聴く「こどもアドボカシー」 ～こどもの「ために」から こどもと「ともに」～

一般社団法人 子どもの声からはじめよう
代表理事 川瀬信一氏

皆さんこんにちは。私の名前は川瀬信一といます。

私は色々なところでこどもの声を聴いたり、こどもの権利について、こどもや大人の皆さんと一緒に考えたりする仕事をしています。

色々なところで紹介をされることがあるのですが、たぶん今日、これまでで最年少の人に紹介していただきました。とっても素敵な紹介をされて嬉しく思っています。

今日は「こどもの心の中を聴く」ということをテーマに、皆さんと 40 分ほど一緒にしたいと思います。メインは皆さんの発表ですので、私はそこを少しサポートできるような話ができたらいいなと思っています。

今、私は「アドボカシー」という取り組みをしています。これは、こどもの声を聴いて、こどもと一緒に声を上げる、そんな活動です。

こどもたちには、マイクのような役割をすると説明しています。マイクは、小さな声でも、届けたい人にしっかり、はっきり届ける。そして、ありのままのこどもの声をそのまま伝える。さらには、マイクのスイッチのオンを自分で決めることができる。つまり、無理やり聴き出されたり、聴いてもらえなかったりすることがないように、こどもたちの声をそのまま伝えていくということです。

今日は3つのお話をします。

1つはこどもの権利って何だろうということです。権利と聴いたとき、どんなことを思い浮かべますか？こどもたちのほうがよく知っていて、聴いてみると「基本的な権利でしょ」とか「生まれたときから当たり前持っているもの」だと教えてくれます。権利というのは、自分

らしく幸せに生きるために、誰もが生まれたときから当たり前を持っていて、誰からも奪われない大切なものです。

浜松市でも、こどもの権利条例の策定に向けて準備をしていると伺っていますが、その基となっている子どもの権利条約には、4つの大切な権利が定められています。

1つ目は「差別の禁止」、例えば、人種や育った環境、性別などによって差別・区別されないようにということです。

2つ目が「最善の利益の保障」、こどもに関することを決めるときには、そのこどもにとって何が一番良いのかをみんなが考えること。大人の都合で一方向的に決めないということです。

3つ目に「生きる権利・育つ権利」があります。こどもは段々と大人に成長していく存在です。その時に自分らしく成長したいということが、周りの人たちのサポートの中で達成されるということです。

4つ目に「こどもの意見の尊重」です。自分に関係することについて、自由に意見を表明する権利です。この声を上げることが、ほかの権利を守っていくことにつながる土台・入口となる、とても大事な権利です。

こどもの権利が「大事だ」という認識が広まったのは、実はここ100年ほどのことです。こどもの権利の普及の過程には、戦争が非常に大きな影響を及ぼしています。戦争や災害など、世の中が大きく不安定になったときには、こどもの権利が守られにくくなるという現実があります。だからこそ、そうした存在でもあるこどもの権利をきちんと保障していこうということが、私たちが今、目の前にあるこどもの権利を大切にしていこうということにつながってきます。

そして、私が住んでいる東京都では2021年に「こども基本条例」、国では2023年に「こども基本法」という法律がつけられました。

少し前までは、「こどもに権利なんてあるの?」「やるべきことをやってからじゃないと権利って認められないんじゃないの?」と考えている人も少なくありませんでした。

しかし、これからは「こどもの権利が大事だ」ということが、色々なところで聴かれていく、そんな社会になっていくと思っています。

それでは、ここで「こどもの権利カルタ」をしてみましょう。参加したいこどもは、舞台の前に出てきてください。

こ っ ど も の 権 利 カ ル タ

ワークショップ参加者の小学生が、「こどもの権利カルタ」をしました。

「こんなことがあったら良いな」「こんなことはしてほしくないな」という、30種類の“気持ち”が描かれたカードを使って「カルタ」を行いました。このカルタは、カードを多く取った人が勝ちというルールではなく、自分にとって大切な気持ちを見つけることを目的としています。

カルタのあと、参加者は30種類の“気持ち”の中から自分にとっての「ベスト3」のカードを選び、クリップを留めました。

カードに集まったクリップを見ることで、自分にとって大切な“気持ち”や他の人にとって大切な“気持ち”を知ることができました。

さて、最後の話になりますが、少しベルギーでの取り組みを紹介したいと思います。

東京都の「こどもにやさしいまち」では、海外の先進事例を視察し、東京都と現地のこどもたちと交流するイベントの一環で、今年の春に中学生と高校生と一緒に5日間ベルギーに行ってきました。

そこで私が一番印象に残ったこと、現地の中学校や高校の生徒会のこどもたちが集まり、「どうしたら自分たちの学校をより良いものにできるだろうか」ということをすごく真剣に話し合っている場面です。そこで「大事にしていることはどんなことですか？」と尋ねたところ、「Co-Creation (共創)」だと言っていました。

どのようなことを「Co-Creation (共創)」しているかという、1つ目は、学校や学校の様々な仕組み、伝統などを一緒に設計する「Co-Design」、2つ目はこどもに関係する物事を決めていくときに、一緒に決定する「Co-Decide」、3つ目は決めたことを、こどもと大人と一緒に協力して進めていく「Co-Operate」だそうです。

この3つの共創をベルギーの中高生たちが大事にしているということを教わって、それが、もっと色々なところでも増えていくと良いと思ったことです。

この考え方は、まちづくりにも表れています。

ブリュッセルにあるブリジティンズ公園に行ったのですが、この公園の奥には経済的なサポートが必要な方々が住む公営住宅が建っています。この公園を新しく作り直すとき、そこに住んでいる地域の人たち、もちろん子どもも含め、どんな場所だったらいいかということをお聞き取りしました。そして、いつ、どこで、誰が、どんなことを言っていたかということをお細かく記録し、さらに、その声を受けて、そこに住む人たち、子どもたちの声を反映するにはどうするといいかという提案を生徒で考えていくということが反映された公園でした。

ベルギーで見てきたことのもう1つに、子どもたち、それから若者たちの余暇・休暇などの「休む権利」がすごく大切にされている点があります。私たちは、「遊び」というのは、生きることや食べることなどに比べると、大したことではない、あるいは贅沢だと感じてしまうこともあるかもしれませんが、しかし、ベルギーで子どもや若者を大切にする町では、街の至るところに、子どもが自分たちらしく自由に遊べる場所をきちんと備えています。

また、文化・芸術活動も非常に重視されていました。例えば、劇で自分の民族的なアイデンティティに関わる発表をしたり、あるいはスケートボードやクライミングのようなアーバンスポーツ、さらにはアウトサイダーアートといった、街の中で様々な表現ができる場所が、社会全体としてたくさん用意されたりしていました。

今日ここに参加してくれている人たちは、多分『こういうことが大事だな』と思って、声を上げたいと参加してくれていると思いますが、もしかしたら、なかなか声を上げにくいという人もいるかもしれない。そういう人の声を取りこぼさないように、ということもベルギーでは大事にしていました。

そこで、具体的なアイデアをいくつか聴いてきたので、もし皆さんの学校でも「こんなことができたらいいな」ということがあったら、参考にさせていただけたらと思います。

例えば、意見を言うのはちょっとハードルが高いけれど、ごみ箱を投票箱にして、校外学習で「海に行きたい」「山に行きたい」といった選択肢を書いて、投票で自分たちの行事を決める。あとは、理科室にあるような骨格標本がリュックを背負っていて、そこに匿名で何でも学校に

関係する意見を書いて入れていく。それが各教室を回ったあとに生徒会室に戻っていくことで、安心して自分の意見を表明することができます。

他には、生徒会室や巡回レポーターが校内をぐるぐる回って、「ここでどんなことをして過ごしていますか」とか、「こうなったらいいと思うものありませんか」と聴いたり、付箋の壁を作ったり。

何か色々な物事を決めるときに、日本では職員室や生徒会室など、誰にも見えない所で自分たちに関係することが勝手に決まってしまう、ということが多いです。しかし、ベルギーでは学校の庭で会議をするそうです。生徒会の人在那里で会議をしていて、周りに様子を見ている生徒などが、「こうじゃないの」と言って、誰でも気軽に発言できる。そういうフランクで参加しやすい仕組みを考えていたりしていました。

これから浜松市が、こども・若者のこえ、気持ち、考えを大切にしていける街にするには、ということ、ここにいる皆さんと一緒に考えていきたいと思います。これから5つの発表があるということで、とても楽しみにしていますが、それを受けて、「どういうことだったらできるかな」ということがどんどん膨らんでいくような、そんな機会になればいいと思っています。